

# 雪彦山の植物概要

故田代善太郎

雪彦山の景勝をなす一分子として植物を観察するにも、植物地理の方面より之を研究するにも、山腹以の樹林帯（喬木、灌木、蔓木の別等）と上部の岩石帯との各方面に亘り汎く之を踏査して樹種類、数量、其發育及生態、常緑潤葉樹と落葉潤葉樹や針葉樹との割合山林の下草、岩石上の小灌木、草本の種類及生態を明かにするを必要とすれば今は其時日なく僅に昨日登山路に沿ふて植物調査上の経験なき一村民の採集したる岩石地帯の植物を見、木本の顯著なるものにつき其知る所を聞きたるに止まれば之を材料としたる記述は、其真相を伝ふるに足らざれどもなほ其一斑を知るに足らん。

山腹の下部には栽植せる杉の外にはカシ類（近畿に産する過半アラ、ウラジロ、ツクバネ、アカカシを有するもの如し）シヒ類其他の常緑潤葉樹多く、数種のカベテ類、其他の落葉雑木を混ず、上部にはサクラ類、モミ、ツガ、ネツの針葉樹に交ふるに若干の落葉潤葉樹を以てす。灌木若しくは灌木状をなす、かくて上部の岩石帯に移行す。此間にキサハゲの多量を存するは邦内其比を見ずと伝ふ、我等此種植物の所々に散在するを以て見て自生なりと見做したるの誤らざるを知るなり。

イハカガミ、アケボノツツジ、ヒカゲツツジ、ホツツジ、イハナシ、オホバシヤクナゲ、ミヤマシキミ、キハギ、ナンキンナナカマド、ツクバネ、ツタウルシ、シンジュギク、サハギク、イナモリサウ、ミヤママ、コナ、コバナタツナミサウ、ミツタピラコ、ツルリンドウ、ユウレイタケ（寄生）、ミヤマカタバミ、シハイスミレ、ジンシサウ、ツメレンゲ、ヤ

マキクマン、キケンシヨウマ、セントウサウ、オホバチドメグサ、バイクワウレン、ミヤマタニソバ、フタリシヅカ、セツコク、オニユリ、チゴユリ、ツクバネサウ、ノギラン、ヤマヂノホト、ギス、マムシグサ、コタニワタリ、イハヤシダ、イハヒバ、イハタケ、サルガセモドキ、オホシラガゴケ、カウヤノマンネンシギ、

！上につき地理的分布より之を考察するに、大体に此地方相応の植物群なれど、イハカガミ、ホツツジ、イハナシ等寒地性植物の標高此程度の山地に生ずるは近畿中国に於ける山地通例なれど本州中部に比して考ふれば珍とするに足る。又ツクバネ、コタニワタリは中国を以て南限とする——分布は多少注意をひくに足る。アケボノツツジ、ヒカゲツツジ、オホバシヤクナゲ、シンジュギク、イナモリサウ、コバナタツナミサウ、オホバチドメグサ、イハヤナギシダ等暖地性植物を有するは注意すべく就中、アケボノツツジは四国、九州にあるも本州には其例を見ざるものあり、（苗を見たるのみで其他を見ざれば斷言する能はざれど）播州にはモチツツジあり、暖地性植物分布し赤穂の海岸には其種類に富み發育よろしきを以て夙に天然記念物たる生島あり、隣接せる揖保郡には支那中国以南に産するコヤスノキを産し、暖地性植物として形態の奇に分布乏しきを以て（伊勢にて）天然記念物となる。ムカデランのあるあり、リウキウゴザクラあり、又沿海地方にはノヂギクあるを見れば雪彦麓放の地帯を精査せば意外のものなしとせざるべし。

# 私のやつた仕事

故田代善太郎

（註）この稿は田代の古稀にあたり母校福島師範学校同窓会よりの祝賀に対して答へたる自己の植物研究業績の概要であります。この報告文は他日固有日本植物地理研究史の準備資料として記録しおいたものであります。

私のやつた仕事は植物の採集及び之が処理に関すること、其研究調査に関することである。此両者は相伴

う場合が多く時には既往の資料を互に比較し又之を総括する。植物採集は北は樺木より南は沖縄に及び朝鮮にも一寸行きました。本土以南は隠岐、佐渡を除きて一通りまわつて分布標本を得ることを心掛けています。所蔵標本は学生時代のものは福島師範学校勤務時代に整理して根本莞爾先生にあげたが其後のものは注意すべきは之を分ちて根本先生にあげ多くは東京科学博物